

会議録

会議の名称	令和3年度 第4回加西市総合政策審議会
開催日時	令和3年8月31日（火）午後2時から午後4時まで
開催場所	加西市役所 5階大会議室
議長の氏名（会長 杉山 武志）	
出席及び欠席委員の氏名	
<出席委員> ・上田尾 真 ・大野 聖佳 ・久米澤 稔 ・後藤 直樹 ・後藤 政博 ・菅原 知美 ・杉山 武志 ・高木 雄太 ・高見 千里 ・谷勝 公代 ・辻田 聡信 ・中野 重美 ・濱本 泰秀 ・山下 光昭 <欠席委員> ・鈴木 忠樹	
傍聴者の人数	
一般：なし 報道機関：なし	
出席した事務局職員の氏名及びその職名	
・ふるさと創造部長 千石 剛 ・ふるさと創造部人口増政策課長 藤後 靖 ・ふるさと創造部人口増政策課課長補佐 後藤 伸嘉 ・ふるさと創造部人口増政策課係長 岩野 裕之 ・ふるさと創造部人口増政策課主任 千種 健史 ・ふるさと創造課人口増政策課主任 垣谷 直宏 ・ふるさと創造部人口増政策課主事 牛尾 充宏 ・ふるさと創造部人口増政策課まちづくり推進員 小山 映	
1 議事	
(1) 第5次加西市総合計画（実施計画：令和2年度実績）における評価・検証結果の報告 (2) 第6次加西市総合計画（実施計画）について (3) 第6次加西市総合計画の評価・検証方法について	
2 会議資料	
会議次第、出席者名簿、配席図 資料1～4、参考資料	
3 会議の経過	
⇒別紙「第4回加西市総合政策審議会の経過」のとおり	

(別紙) 第4回加西市総合政策審議会の経過

発言者	会議の経過 / 発言内容
会長	<p>1 開会 <会長あいさつ> ・緊急事態宣言が出ている最中、お集まりいただき感謝申し上げます。 ・今日の会議は、まず前回、前々回と2回にわたり開催した部会での評価結果の報告をしていただき全体で共有したい。 ・次に、新計画に対する評価の進め方に関して審議をしていただく。 ・積極的に発言いただき、有意義な会議としたい。</p>
会長	<p>2 委員等出席者の紹介</p>
会長 部会長 会長 部会長	<p>3 議事 (1) 第5次加西市総合計画における評価・検証結果の報告 (事務局から資料説明) ・各部会の部会長からの報告に移る。 ・部会1の谷勝部会長から報告をお願いする。 ・施策1について、図書館を含めた様々な施設では、新型コロナウイルス感染症が拡大する中で準備や緊急対策をどのようにしていくか、相応の努力が認められたので内部評価はC評価であったがB評価とした。 ・施策2では、以前より青年活動が低調だと感じる。その原因が少子化だけの問題なのか、それとも彼らと我々のニーズの違いにより表れているのか検討が必要である。現代の青少年のニーズをしっかりと考えてもらいたい。 ・施策3では、勤労者体育センターへクーラーを設置するなど体調不良者のための処置室の整備が求められていると感じる。 ・施策5は、学校と地域を繋ぐ社会教育の推進ということだが社会教育は地域で動くことが重要だと考える。 ・学校教師は非常に激務である。働き改革の検討をしてもらいたい。その中で創意工夫を持って教育を行ってもらいたい。 ・語学向上のためのスピーチコンテストを積極的に実施してもらいたい。 ・学童保育の流れのまま習い事ができれば、女性の働き方改革の後押しになるのではないか。 ・施策22では、獣害対策として電気柵などが設置されているが、道路からはみ出ている箇所があるなど、通学する子供たちや高齢者を守るためにも適切な設置をお願いしたい。 ・施策23では、カサブランカを始め最新の観光マップが数多く制作されている。その効果を顕著に感じているので、内部評価ではB評価であったがA評価とした。 ・パンフレットを製作し、認知度を向上させることは重要であるが、併せて印刷物作成に伴う地球温暖化について考えることも大事なことである。 ・施策25の循環型社会づくりは、人間の体と同じで、ごみ処理、地球温暖化、CO2関係を動脈、静脈とし、両方がきちんと循環してこそ自治体として整うものである。予算はかかるが引き続き実行してもらいたい。 ・施策27の環境学習については、まさに循環型社会であり、新計画でも取り上げられているSDGsの下、どのようにして企業と話を折り合わせていくか、それぞれ立場が違うので話し合いで優先順位を決め進めてもらいたい。 ・施策29に関して、阪神淡路大震災の後、やさしい日本語が大事であると言われている。外国人に対して、丁寧に話そうと薬に「お」を付けお薬と言うと、それは全く別の単語となる。丁寧に伝えようとしたことがかえって誤解を生むこともあるので外国人に対しては明確な言葉で伝えることを意識しなければならない。 ・外国の子供たちは家では一人で宿題をすることができないと言われるが、なぜできないのかを教育現場の方には真剣に考えてもらいたい。 ・続けて部会2の濱本部会長から報告をお願いする。 ・施策8の農業関係は、阻害要因もあり思ったとおりに進んでいないが努力した点を評価とした。 ・施策9の商工業関係は、信用保証料の1/2補助やキャッシュレス定着のための市の独自サービスの立上げ、コロナ対策のための無利子融資、土地の地目変更による工業地や商業施設を作るといった努力が見られたので内部評価ではB評価であったがA評価とした。 ・施策14の公共交通関係は、加西市自体がもともと公共交通の厳しい地域でありトータル</p>

<p>会長 部会長</p>	<p>な交通対策が欠かせない。毛細血管となる部分の交通網がうまくできることを望むとともに高齢化にあたり大きな役割を担ってもらいたい。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・施策15の整備関係では、歩道整備は予定どおりの進捗となっているが、安全確保のため農道等を通学路に振り替えているところもある。昨今のガードレールのないところに車が突っ込み、児童が亡くなるといった事例もあるため、こうしたところは特に計画よりも早い整備を望む。 ・最後に部会3の山下部会長から報告をお願いします。 ・全体的にコロナによる影響が様々な面に出てきている。 ・私自身以前市の監査役をしていたこともあり、今回の評価では費用対効果といった予算の執行状況を含めた評価ができなかったため、十分な評価をしたとは思っていない。 ・施策16では、様々な場所に出かけて勉強したいと思っている意欲的な高齢者が一定数いたことは評価できる。 ・高齢者講座を開講できなかったというところもあるが、全てにおいて市民ニーズに沿った施策が求められるのではないかと。 ・施策17は、コロナ禍で難しい問題はあるが、新聞だけの周知では様々な世代の市民に届いていないように感じる。IT時代に合った形での宣伝も必要である。 ・加西市出身のラジオ体操考案者の一人である大谷武一氏は、様々な体育の振興に大きな功績を残されている。このような方の功績を受け継ぎ、PRしていくことが大事である。 ・施策18については、全てが目標を下回っている。 ・病院の関係では、フォーラムや出前講座の中止により市民に身近な市民病院としては見劣りする一年であった。 ・新病院建設の準備をしているが、市民にどのような結果をもたらすのかは非常に重要なことである。公営病院を作るということを市民に問いかけながら、また示しながらやっていく必要がある。 ・産婦人科については、少子化の中、市民ニーズは地元でありながらも訴訟問題等のため近隣市でも個人の産婦人科医院が閉院したと聞いている。身近にあることが一番だが、北播磨地域の中に安心な産婦人科は必要である。 ・施策20については、B評価ではあるが、特に消防団の活動が停滞している。 ・施策21には、子育て関係の幅広い施策があるが、全てが市民ニーズに沿った政策立案をする必要がある。今後職員だけでなく地域の声が入るような施策を構築してもらいたい。 ・施策30については、財政状況が厳しい中で職員の削減が言われているが、災害等のことを考えると安易に削減することは好ましくないので、職員の質を上げながら新たな採用もしっかりとすべきである。 ・それぞれの部会で印象に残った点を挙げたい。 ・部会1に関しては、環境分野で内部評価・外部評価ともにC評価であったが、新計画ではSDGsのラベリングがなされていることから、より一層力を入れていく必要がある。 ・部会2では、交通関係で内部評価の事業到達度がオールC評価であるが、なんとか新計画の下では改善していきたい。毛細血管となる地域主体型交通と組み合わせた方向性で実行してもらいたい。 ・部会3に関して、病院関係は様々な事情があるがなんとか改善していく方策を皆様の知恵を借りながら進めていきたい。 ・ラジオ体操考案者の一人が加西市出身者というのは特にPRすべきである。
<p>会長</p>	<p>(2) 第6次加西市総合計画（実施計画）について (事務局から資料説明)</p>
<p>会長 委員</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・事務局から説明のあった5つの施策について、評価シートの見方も含めてご意見を願いたい。 ・加西病院改築については、大きな費用を使うわけだがどういう病院を目指しているか市民の関心は高い。目指すべき姿を示してもらいたい。 ・加西インター産業団地整備については、将来的に市にお金が入ってくるものだが、鶴野関係は、費用対効果がどうなのか懸念される。 ・環境関係では、地元のパナソニックがあり、車の車載電池等先進的な製品が製作されている。こうした企業と連携しながら何か得られるものはないかと。 ・屋内遊戯型施設の整備については、ニーズに基づくものと解されるが、子を持つ親からの要望によるものか。 ・屋内型ということであれば、高齢者は屋内でグランドゴルフができる施設を求めているが市はどう思っているのか。

事務局	<ul style="list-style-type: none"> ・新計画での評価方法の変更については、評価がA・B・Cの3段階となることに賛成する。多段階評価よりもわかりやすいものになる。 ・評価シートに事業ごとの経費が計上されているのは一つの評価基準にもなり、評価しやすい。 ・加西病院改築については、基本計画の下、どの診療科を残していくか、現在の199床を減らしニーズの高い診療科目を残していくということで今年度基本設計を実施しているところである。 ・鶴野関係では、soraかさい（地域活性化拠点施設）にて平和学習のための映像を含めた施設整備を行い、地域の物産販売や飲食スペースを設けるとともに、雨のかからないスペースでは、フリーマーケットやオープンカフェを検討しており、一定の集客を見込んでいる。 ・環境関係では、プライムプラネットエナジー&ソリューションズ株式会社（トヨタ自動車㈱とパナソニック㈱の合弁会社）との連携について、具体的な提案をいただきながら話し合いを進めているところである。 ・屋内型遊戯施設については、市民から多くのニーズがあった。未来型児童館の構想と並行して全天候型で親子が遊べる遊戯施設を作り、親と子が何度も通いたくなるような施設を目指している。 ・高齢者用のグランドゴルフ施設については、屋内ゲートボール場として整備したすばやく加西にてグランドゴルフの使用が可能であるため、現在のところ全天候型のグランドゴルフ場の計画はない。
委員	<ul style="list-style-type: none"> ・評価方法の変更については、概ね良い評価をいただき感謝申し上げる。 ・施設について、他市町にあるものが加西市にもあれば良いし、他市町にないものもまた加西市にあれば良い。 ・福崎町や西播磨には、うまく運営をしているグランドゴルフの施設がある。ネットを見れば施設の情報は入ってくるが、現地に足を運ぶことで実際の運営状況がわかり比較することもできる。 ・お金をかけると良いものはできるが、市民のニーズに沿った施設づくりをしてもらいたい。
委員	<ul style="list-style-type: none"> ・評価について、現在の5段階評価のSとDがなくなり3段階になることについては、賛成である。ただし、これまでの外部評価でどちらか判断に迷ったときに中央のB評価に寄ってしまう傾向が強かった。3段階評価になるとBにしかならないのではないかと懸念する。 ・3段階になるとA・B・Cが大きな要素を持つことになる。内部評価はともかく外部評価ではB評価をわかりやすく工夫した方が良い。 ・評価に迷いB評価とした際に、問題の本質が隠れがちになってしまうのではないか。例えば「B+」や「B-」とすることで同じB評価であったとしても差が生まれ、問題喚起することができるのではないか。
副会長	<ul style="list-style-type: none"> ・A・B・Cに対する評価の基準（日本語の説明書き）が問題である。 ・日本語の説明書きをなくし、単純な数字の5段階評価で感覚的に点数をつける方が素直な評価ができる。
会長	<ul style="list-style-type: none"> ・事務局側で内規的な評価基準を設けてみてはどうか。 ・3段階評価に賛成の方（4人挙手） ・5段階評価に賛成の方（10人挙手）
委員 会長 委員	<ul style="list-style-type: none"> ・4段階評価でも良い。 ・S・A・B・Cの4段階評価であれば従来からの改善にも繋がる。 ・評価には、計画どおりに進んでいるかどうか、施策目標を達成するのに効果的であったかどうかの2軸があると思われるが、それを1軸で評価しようとするとなんとなく計画どおりに進んだかどうかという評価の方に偏ってしまう。
委員	<ul style="list-style-type: none"> ・目標を達成しているかどうかで評価するとほとんどB評価になってしまうので、市の事業に対する取組姿勢を評価した方が良いのではないか。
会長	<ul style="list-style-type: none"> ・その場合は、内部評価と外部評価の基準が変わってくるのが懸念されるがそれを良しとするかどうかになる。
事務局	<ul style="list-style-type: none"> ・内部評価は達成具合で評価するものと解されるが、濱本副会長の言われた評価基準の説明書きを削除することに関しては、評価基準を統一するためにも必要と考える。
会長	<ul style="list-style-type: none"> ・高見委員の意見に関しては、外部評価の時点で、よくやっている部分として数字では表れないところを評価しやすくなる。 ・内部評価と外部評価の評価基準を変えることもあり得る。
副会長	<ul style="list-style-type: none"> ・内部評価に対する評価をしていくのであれば、公共交通のように非常に厳しい課題があ

会長	り、頑張っているが数値目標を達成できないといった場合がある。その場合は内部評価ではCであるが、外部評価ではBといったように取組を評価することもできる。
副会長	<ul style="list-style-type: none"> ・評価方法に関しては、委員の皆様に改めて検討する時間を設け、再度見解を伺った上で次回の審議会で確定したい。 ・事務局には、3パターン程度のパターンを提示いただき、皆様のご意見を頂戴しやすいような方法の検討をお願いする。
会長	<ul style="list-style-type: none"> ・事務局から説明のあったテレワークセンターに関しては、K P I が利用者数となっている。この施設の目的は子供たちが安心して遊べ、かつ親は仕事ができるということであるが、2つの目的に対して総数のみの目標である。 ・テレワークでの利用者数、子供の利用者数といった目標を別途設定することで結果と取組が見やすくなるのではないかと。 ・加西病院の改築に関しては、急性期医療はやめて回復期と慢性期に特化しようとしている。その中でK P I が市立加西病院への紹介率ではおかしいのではないかと。 ・今後の病病連携を踏まえ、救急に関しては拠点病院へ搬送し、その後帰ってくる病院、また高齢者の慢性疾患をしっかりと診る病院でないと生き残れない。K P I を医師会との関係だけを見るものとせず、施策目標に対してしっかりと評価できるようなK P I を作ることで評価基準も明確になってくる。 ・加西インター産業団地に関しては、開発できたから良しとするのではない。もともとの目的は有力な企業を誘致し、加西市民の雇用の創出とその企業で働く人の移住・定住である。 ・いずれもK P I と施策とが合致していないため、評価がわかりにくい。 ・テレワークセンターに関しては、K P I を利用者数だけにしてしまうと評価結果が悪くなるのではないかと危惧する。 ・子育て環境の充実を目指す施策であるので、テレワーク利用率を設定するなど、親子世帯がどのくらい訪ねてきているのかといった数字を見ると評価としては正しい数字が導き出されるのではないかと。
会長	<p>(3) 第6次加西市総合計画の評価・検証方法について (事務局から資料説明)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・評価・検証体制に関して事務局から提案のあった3パターンについて、またそれ以外のことについて意見を伺いたい。 ・パターン①の従来型に賛成の方 (13人挙手) ・パターン②に賛成の方 (なし) ・パターン③に賛成の方 (1人挙手)
事務局	<ul style="list-style-type: none"> ・パターン③も方法の一つであるが、パターン①が圧倒的に多かったという結果である。 ・従来どおりのパターン①のように部会に分かれて小規模で実施することで委員の皆様とのコミュニケーションを図りつつ、市としての想いを伝えることができる。全体会で共有したい部分もあるが、その点は調整しながら行いたい。
会長	<ul style="list-style-type: none"> ・協創のまちづくりという方向性であることからパターン①でよろしいかと。
副会長	<ul style="list-style-type: none"> ・パターン①については、以前事務局に意見を申し上げたが、各部会で注目する施策を1、2つ選んで全体会で話し合う方法も良いのではないかと。
会長	<ul style="list-style-type: none"> ・部会で出た意見のほかに全体会で意見が出た場合は加筆するといったイメージになるのか。
副会長	<ul style="list-style-type: none"> ・部会で判断のつかなかった施策や他の委員に好事例として知ってもらいたい施策について、全体会に諮るといったイメージである。
会長	<ul style="list-style-type: none"> ・審議会の運営的にはいかがなものか。 ・次年度の部会は何回を予定しているのか。
事務局	<ul style="list-style-type: none"> ・現在のところ部会は2回、政策審議会自体は全4回を予定している。 ・1回目がイントロ、2、3回目が部会、4回目を全体報告の予定としている。
会長	<ul style="list-style-type: none"> ・4回目に全体で協議したい施策に対して意見を頂戴する時間を設けるということも一つの方法である。
委員	<ul style="list-style-type: none"> ・全体会で行うのが良い。部会内で活発な意見が出れば良いがわかる人ばかりとは限らないし、部会の場合特定の人の意見が通りやすい。全体会であれば様々な意見が出て、それを参考に自身の意見を発言することもできる。
会長	<ul style="list-style-type: none"> ・山下委員の意見は非常によくわかる。 ・特定の人の意見が外部評価として通ってしまうということはあるので、評価検証自体を全体会で行うのも一つの方法である。

<p>事務局</p> <p>会長</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・委員の皆様の意見として一番多かったのは現行方式の部会での評価検証であったが、山下委員の意見を加味していくと部会での評価検証の終わった次の会議にて、時間はかかるが全体に対する意見をいただいた方が良いのではないか。 ・部会に関しては、各委員の専門分野となる施策を集めた部会に入っただけで、偏った評価であることはないと認識している。 ・2回の部会の後、全体会でピックアップされた施策を再評価していく方法も会議回数は増えるかもしれないが可能である。 ・評価検証の体制については、次回に最終確定としたい。 ・事務局の意見を踏まえた内容であれば、次年度の会議回数は余裕を持たせて年5回になることも想定しておく必要がある。 ・評価の段階を3段階、4段階とすることについても次回に最終確定とすることとしたい。 <p>4 その他 〔質問・意見なし〕</p>
<p>副会長</p>	<p>5 閉会 ＜副会長あいさつ＞</p> <ul style="list-style-type: none"> ・コロナ禍における緊急事態宣言下中にも関わらず参集いただき感謝申し上げます。 ・本来であれば全てのことを全体会で話し合えることが最良であるが、時間的な制約がある。 ・次回、新計画の評価検証方法が部会方式になったとしても、各部会ではできるだけ委員が意見の出しやすい会議運営をしてもらいたい。 ・これによって、各委員が違う部会の施策にも意見が出せるようになれば、それは新計画の進捗に非常に役立つことだと認識しているので、遠慮なく今後ともよろしく願いたい。